

2020年(令和2年)8月14日

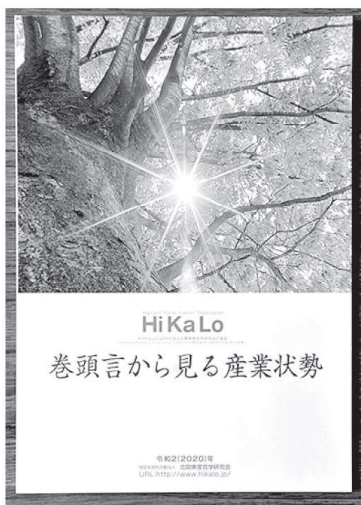
特定非営利活動法人

北関東産官学研究会

群馬県桐生市織姫町2-5

桐生地域地場産業振興センター4階

郵便番号376-0024 電話0277-46-1060



発行された「HiKaLo
巻頭言から見る産業状勢」

不安の時代にこそ 過去にヒント探る

技術情報誌の創刊は研究会の発足と同じ2000年。以後、2002年3月までに71号と、著実に号を重ねてきた。そこに掲載されている産・官・学界の有識者が綴った巻頭言には、各界の抱える課題、将来への展望、最新のトピックなどが盛り込まれており、変動する時代の価値観が映し出されている。

こころ、いんと
巻頭言
この課題が
くが含
を指摘
して
編
委員
全96
製。関
会まで。

いま求められてい
と述べ、20年近い
の言葉の中に、多
題や解決へのヒ
まれている可能
「試みに編纂を
た」と動機を語

各界の有識者が
価値観を伝える

本研究会は、このほど「HiKaLo」技術情報誌」に掲載された「巻頭言」を、本研究会から見る産業状況を発刊した。本研究会が発行している季刊

H i K a L O「巻頭言から見る産業状勢」発行



根津紀久雄会長

融機関、市民団などを
つなぎ、地域の雇業、経
済、文化、教育の振興と
発展を目指して、
例年6月末に定例総会
を開いているが、今年は
新型コロナウイルスの感
染に配慮し、6月半ば、
会属宛てに議案書を送
付。6月26日までに回答
すでに10件の採択を決定
した。2020年度共同研
究助成事業については、
1500万円の予算を計
上した。
また、一般市民向けの
無料公開講座や企業向け
人材育成セミナー、異業
種交流セミナーの開催、
21年度に桐生市で開催す
る「花と緑のぐんままつ
り」に向けた準備、
湾・中国との交流および
販路開拓費など、連携ネ
트워크の構築費として
2060万円を計上。

影響広がる 新型コロナ

本研究会も苦慮

本研究会（根津紀久雄会長）の2020年度定例総会が行われ、公開講座の開催などを盛り込んだ新年度事業計画案や、前年度並みとなる約3500万円の子算案などが書面による議決で承認された。新型コロナウイルス禍で先行き不透明な情勢だが、根津会長は「対面が難しければウェブセミナーの開催など、情報通信技術を有効活用し、新型コロナウイルス時代の産官学連携のあり方を模索したい」と抱負を述べている。

事業実施へウェブ活用も

総会、書面で議決

新型コロナの影響につ
いて、根津会長は「各専

コロナ時代を映すテーマも 共同研究の助成対象決まる

門部会の総会もすべて書面での議決となった。事業の開催時期などを遅らせ、できれば対面で実施したいが、状況によってウェブでの開催もありうる」と、今年度の見通しを語る。

件、申請件数は4件多い19件だった。

共同研究の助成は本研究会会の主要事業の一つ。企業と大学・公設研究機関などが協力して取り組む共同研究は、地域産業の高度化や新製品・新技術の発表された開発テーマの中には、「手荒れ因子」を軽減する手指消毒剤の開発「モノコキトサン」の交互層積法によるウイルス抑制効果の検討など、新型コロナウイルスの時代を映し出す内容も散見され

本研究会（根津紀久雄
会長）の2020年度産
官学共同研究助成事業
の採択結果が決まった。助
成タイプは前年度と同じ
3種で、新型コロナウイルスの時
代を反映する開発テ
ーマもあらはら。採択件数
は前年度より1件増え10
500万円。

本研究会では5月8日
までに助成対象を公募
申請のあった19件につ
いて、一設企業・大学・公
設研究機関・桐生市の関
係者ら6人が6月12日に
審査した。助成総額は1
億5000万円。

の総会で、採択された研
究の開発責任者に交付状
を手渡しているが、今年
度は総会が書面評決と
なったため、郵送での送
付となる。

採択事業の申請者・
テーマ・共同研究先は左
の表の通り。

照り付けた。彼らは10時頃、現場に到着して準備を開始。筆者は昼過ぎに着いた▼桐生川上流とは聞いていたが、バーベキューが許可された川べりではないようだ。気にはなったが、調理はもう始まっていた。すぐ下流ではイラン人男生とベール

令和2年度共同研究 採択一覧

区分	申請者名	所在地	開発テーマ	共同研究先	
第1種	A	日本化薬フデテクノ/株式会社	高崎市若鼻町	キノコトサンの交互積層法によるウイルス抑制効果の検討	産業技術センター 繊維工業試験場
		株式会社 アート	桐生市相生町	手荒れ因子を軽減する手指消毒剤の開発	繊維工業試験場 産業技術センター 明星大学・日本医科大学
		有限会社 スズキワパー	桐生市相生町	人工知能（AI）を用いた繊維物検査システムの開発	繊維工業試験場 産業技術センター
		金井レース加工	桐生市広沢町	繊維表面のポリフェノール膜形成によるヘルスケア製品の開発	繊維工業試験場 カケンテストセンター
	B	株式会社 鈴木機械	桐生市広沢町	振動試験治具の信頼性向上、開発期間短縮に関する研究	群馬大学
		株式会社 シンクトゥギャザー	桐生市相生町	地域活性化のための超小型低速電動バス COM-4の開発と性能評価	群馬大学
		株式会社 矢野	桐生市本町	溶融紡糸による高強度・機能性ポリエチレンコンボジット繊維の作製	群馬大学 繊維工業試験場
		川村株式会社	桐生市仲町	廃棄繊維ならびに天然由来物質からなる除菌性抗菌剤の開発	群馬大学 繊維工業試験場 高崎量子応用研究所
		合同会社 後藤	桐生市中央	植物帯地のデザインデータ管理技術の開発及び配色提案による新規デザイン創出	群馬大学 武蔵野大学 文京学院大学
第2種	群馬産業技術センター	前橋市亀里町	食用油を原料としたメタン製造に関する研究	桐生ガス	

◆第1種A=具体的成果が見込める研究を助成。対象は県内外を問わず研究会の会員企業（上限300万円で全額補助）◆第1種B=内容はAと同じだが、対象は桐生市内◆第2種=萌芽的研究を助成。対象は研究会会員企業（上限50万円で全額補助）

くす若葉

梅雨明けを待ちかねたように中国の若者が計画したバーベキュー大会に参加した。中国人の

てくる。エアコンのきいた事務室でパソコン画面を眺めているか、考えに耽っている毎日の生活の疲れが洗い流されていく▼この心に働きかけてくる自然の豊かさと穏やかさを傷つけてはならない、とつくづく思った。(紀)

最大300人が同時受講可能

感慮拡大を防止するため、群馬大学科学技術振興会は2020年度科技振セミナー（同大学理工学部・同大学産学連携・知財の財産活用センター共催）を、Zoomを使って、タウエシナナとして実施す。受信環境さえあれば場所を選ばず、最大300人が受講できるという点がメリットだ。

科技振セミナーは1996年から続く科学技術振興会の恒例事業。同大学理工学部の教員が講師となり、最近の科学的ト

- ◇ 8月21日＝「分析目的と分析方法、依頼分析にも対応できる分析装置の特長」（林史夫准教授）／「基礎から学ぶ振動のしくみとその対策」（丸山真一教授）
- ◇ 9月18日＝「分子を伸ばし強い繊維をつくる」（上原宏樹教授）／「高分子を利用した形態機能性セラミックスの作製」（櫻上將規助教）
- ◇ 10月23日＝「高電圧と食品・バイオ・水の融合を目指して」（大嶋孝之教授）／「加速度センサのしくみと応用」（中沢信明教授）
- ◇ 11月27日＝「マルチマテリアル用微細接合部の信頼性評価」（荏司郁夫教授）／「軽量金属構造の未来」（半谷禎彦教授）
- ◇ 12月18日＝「調整中／気候変動下の豪雨による河川災害について」（清水義彦教授）

講義開始は午後 2 時半/同 3 時45分

を、専門外の受講者にも理解できるよう、わかりやすく解説する、わかりやすい解説として、簡単な数式などを用いず、基本的な考え方、けるのが狙いだ。

研究結果の要点、社会に与えるインパクトなどを易しく話してもらうのがモットー。セミナーを通じて、活発な討論に結び付けるのが狙いだ。

今年度は大学の機體船舶にはじまり機械運動の基礎はじり、高分子材料、バイオテクノロジー、セーソーナリ、金属材料および接合技術、身近な豪雨災



松浦勉新会長

松浦勉新会長

松浦氏は1985年、群馬大学に着任。2020年から数理データ科学教育研究センター教授となり、応用数学の分野で活躍している。前会長は

この事業は、新型コロナウイルスの石川氏から発案された「緊急留学生支援事業」が議題として提出され、理事会と会員全員が承認した。

群馬地区技術交流研究会の2020年度会長に、群馬大学教育センター長・群馬大学教育研究センター教授の松浦勉氏が就任した。新型コロナウイルス禍で書面審議となった2020年度総会で承認された。また、新型コロナウイルス対策として、緊急留學生支援事業の実施も決定。申請のあった群馬大学と足利大学に通う留學生24人の支援を決めた。

石川は、当初5月27日に開催の予定だったが、新型コロナウイルス禍のため書面審議に。その際、前会長

コロナ禍に留学生支援

害など、8月から12月までに全9件のウェブセミナーを用意している。受講は無料だが登録は必要。セミナーの日時、内容などについては表を

参照。どこからでも参加できるので、希望者は氏名、所属、メールアドレスを同振興会事務局（群馬大学工学部同窓記念会館内、電0277・20・8332〈学内1098〉、ファクス0277・877020、メールアドレス kaeshin@dan.wind.ac.jp）まで連絡する。なお、同振

興会のホームページでも詳細を紹介している。
（群馬大学科学技術振興会理事 志賀聖一）

ナウイルスの国内外での流行にともない、アルバイトがでなくなった留學生や、母国で暮らす親の経済状況が悪化した留學生を支援するもの。留學生一人につき3万円、定員20人の枠を設け、募集をかけたところ、群馬大学と足利大学で学ぶ留學生24人が申請した。

技交研では北関東東産官学研究会とも相談し、足利大学の8人（内訳はインドネシア、ネパール、セネガルなど）、群馬大学の16人（内訳は中国、マレーシア）の計24人全員の支援を決定。3万円ずつ贈呈することにした。

その後、足利大学の教員と留学生が技交研事務局のある群馬大学桐生キャンパスを訪れ、事業に対するお礼を述べた。（群馬大学大学院教授 平谷慎彦）

佐藤氏が新会長就任へ
化学技術懇話会 総会では書面で議決

議しているが、新型コロナウイルス感染症の感染
の行事開催を想定して稟
員構成、「4号議案」そ
他の資料をすべて郵送
し、別添の「賛否・意



佐藤正秀新会長

北関東地区化学技術懇話会の2020年度総会
は書面での開催となっ
た。

当初は、新型コロナウイルス感染症の感染状況
は困難であることが予想
される。20年度予算・事
業計画（宇都宮大学教授
藤正秀）

普及講演会のほか、地中熱利用普及促進活動の重点対象として、自治体や公共物件を選んで、地中熱利用に対する自治体の理解を高めるためのPR

研究会が
全面支援
地場産品でプリンター設置

植える花の苗なども手配した。

自治体へのIRに注力
 地中熱研 関連他団体との交流も

また、自然エネルギー

桐生市の中心街に花を飾り付けようと、桐生中央商店街振興組合と各商店街有志や、群馬大学理工学部の教職員有志らが協力し、花の苗を植えた木製フランチを商店街に設置した。

木製フランチを設置したのは、10年以上の歳月がたつ、フランチの老朽化が目立ちつつあった。当時、緑生エアで実行委員長を務めた本研究会の根津紀雄会長は「フランチは使わず、フランチも壊れ花も、すべて地域産品でまかなうことを念頭に置いて動いた」と根津会長。

4月19日は桐生市本町六丁目の古民家カフェ「フラスアンカ」の駐車場を

全国の感染者数再増加の傾向を鑑み、会員の感染防止の観点から今年度に関しては総会のみの書面開催とし、記念講演会は中止とした。

会員宛てに19年度決算を中止し、総会だけの書面開催とした。

北関東地中熱利用研究会の2020年度通常総会は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、対面式の総会および地中熱普及講演会の開催を中止し、総会だけの書面開催とした。

会員宛てに「1号議案」の19年度の幹事報告、事業報告、会計報告、及び監査報告、2号議案として20年度事業計画案および予算案、「3

隣の公共物件の見学などの実施、群馬大学の研究支援なども予定している。

（群馬大学大学院准教授 蔡飛）

12月に講演会の予定も

で12月に講演会を開催し、2年度に現状開会した。その結果、理事事に書面での審議を依頼した。

複合材料懇話会 変更の場合も想定

ようと計画している。
さうし、これも大兄こ
全員の承認が得られた。
さうし、会員全員こ対

2020年度は新型コロナウィルス感染症対応に止めた。

総会の対面での開催を中止にした。

よつては変更を余儀なくされる場合も想定して、書面審議を依頼した。

して7月31日を期限とし、

のため、複合材料懇話会では例年6月第1週に開催している理事会および6・9・12月に講演会を開催する。これら事業・決算報告、策定した事業計画、予算案について、理

（群馬大学大学院教授
山延健）



プランターに苗を植える商店主や大学関係者ら
(桐生市本町六丁目のプラスアンカーで)

街中に花

ど、取り組みを支援した経緯がある。

このとき桐生の中心街にランターを設置すること。地元の蛭間木工所と瀬

予算を検討し、50個のフ

まちなかの景色を明るく分
えた。